

新潟県剣道連会報

第 96 号

平成26年12月25日

発行

新潟県剣道連盟

事務局 〒950-0916
新潟市中央区米山5丁目1-25
小林ビル4階

TEL025-244-3481

FAX025-244-3482

http://niigata-kenren.com

定例理事会

8月16日(土)、午後1時半から新潟市ユニゾンプラザ会議室において定例の理事会を開催しました。

1 開会宣言

2 会長挨拶

3 議長選出

4 議事録署名人選出

5 議案審議

第1号議案

剣道有功賞・少年剣道教育奨励賞

(案)

第2号議案

中学校武道授業協力者養成講習会の開催(案)

第3号議案

法人設立祝賀会収支報告

第4号議案

全員一致で承認可決

第5号議案

全員一致で承認可決

6 報告事項

(1)各専門委員会報告

▽総務委員会 伊藤文博委員長が配布資料に基づき報告

総務委員会を開催し、新剣連の各規定の見直しを検討する

▽事業・普及委員会 帆苅達郎委員長が口頭報告

壮年大会における参加チームの要件の一部を変更する

▽審判・講習委員会 小杉耐三委員長が口頭報告

新剣連審査員の審判技術の向上を図るため、審判員講習会の開催を検討している

▽強化委員会 加藤治委員長が配布資料に基づき報告

各全国大会の結果及び今後の各大会出場選手について

▽広報委員会 大図正弘委員長が新剣連会報誌により報告

新剣連95号の発行について

▽居合・杖道委員会 吉田哲夫委員長が口頭報告

杖道昇段審査の現状について

(2)事務局報告

木村嘉靖事務局長が報告

全国高等学校校定時制・通信制剣道大会の成績について報告

7 その他

(1)渡邊幹雄理事

・昇段審査や各剣道大会における審査員等の交通費が現状に即しておらず、検討願いたい

(2)吉田賢一理事

審判講習会における講習内容が各講師により異なっている。事前打ち合わせ等により統一して欲しい

・高体連、中体連に所属する先生は、加盟団体である学剣連に加入しているのか。また高体連、中体連と学剣連との繋がりはどうか、説明願いたい

8 監事意見 那須野求馬監事

特になし

9 閉会宣言

優勝祝賀会

第六回都道府県対抗女子

剣道優勝大会 優勝祝い開催！



去る9月28日(日)東映ホテルにて剣道連盟各支部、また有志者含め大勢の方にお集まりいただき祝勝会を開催しました。

今回の活躍については前号の会報誌でお伝えしたとおりです。つきましては大将の重責を果たした町田選手に今後の展望等寄稿をお願いしました。

さらに精進を

選手代表・大将 町田 朋子

この度は、盛大な祝賀会を開催していただき心よりお礼申し上げます。多くの先生方からお集まりいただき恐縮するとともに、記念品やお祝いのお言葉に、選手一同感謝の気持ちでいっぱいです。

当日は、大会以来2ヶ月ぶりに選手全員と監督が揃い、一戦一戦のそれぞれの心境を語り合うなど、日本武道館での感動、感激がよみがえってきて、胸が熱くなりました。当日もご挨拶させていただきましたが、大会では、チームワークと雰囲気の良い勝利の原動力となり、優勝後はたくさんのお祝いや喜びのお言葉をいただき、人の温かさや絆というものが強く感じることができました。

強豪ひしめく「全国優勝」という奇跡のようなことが成し遂げられたのも、多くの方々の支えや励まし、ご指導のおかげと改めて感じました。選手一同、今後も感謝の気持ちを決して忘れることなく、さらに精進して参りたいと決意しております。本当にありがとうございます。





剣道よもやま談義、
略して

稽古回数は226回!?

3日に2回の稽古回数。今年の県大会60歳代以上の部でも優勝された「高橋守先生」のご活躍を皆さんご存知だと思えます。その裏づけされたご努力には敬服です。そんな「鉄人」のような先生に寄稿をお願いしました。

老いの生き甲斐

上越市剣道連盟 高橋 守 74歳



私は26歳の時、生誕地の上越市を離れその殆どを県外で勤務していた。

新潟県内での勤務は42歳で新井郵便局1年、51歳で直江津郵便局1年4ヶ月、56歳で巻郵便局1年、58歳柏崎郵便局1年、そして定年を新潟貯金事務センターで迎えた。一箇所での勤務が一番長かったのが、旧郵政省の12年で

ある。郵政省には道場があり、毎日のように稽古もし、他官庁との交流も深めた。

県大会60歳以上の部に出場したのは61歳の平成13年「第50回大会」からである。一刀で5連覇を成し、6連覇の時から二刀で戦い、7連覇目の時に、山田義雄先生に敗れた。

平成20年5月、県剣連総会席上で6連覇を称える「剣道栄誉賞」を頂き大変嬉しかった。山田先生に敗れた後の平成23年7回目、25年、26年と連続優勝となった。8回目の優勝の時10回目を最後にしたいと思い、稽古に励んできたが、9回目を達成し喜んでいいる。今後更に努力を重ねていきたい。

上越における稽古では同年代の皆さんに支えられ朝稽古を楽しみ、高校生や上越教育大学院生の遠隔から打ち込んでくるスピードある剣道も有難く感謝している。

一方、新潟県高齢剣友会の定例稽古会や他県高齢剣との交流会も有意義で楽しく会員の皆様と共に交剣知愛（剣を交えて愛しむ知る）を広め深めている。稽古仲間や機会に恵まれ、また妻の協力があり、この上



ない幸せを感じている。因みに今年10月末現在の稽古回数は226回である。最後にこの1年を振り返ってみると、5月31日の新潟県ねりんピック大会71歳以上の部5連覇、6月9日の「全日本高齢者武道大会70-74歳の部」準優勝、10月18日「全国郵政武道大会OBの部」優勝と努力が報われた年であり、稽古仲間に感謝している。

老いたるも夢は青春冬銀河

審査と稽古、稽古と試合：

いつも我々は自分の稽古に日々迷いを生じながら時には先生方にご意見を求めます。自分ではなかなか自分の剣風を観れないがゆえに「人の振り観てわが振り直せ」とばかり過ごしていますが、今回、渡邊幹雄先生に稽古の上で大事なことで、そして日々伝えていかねばならない事等について寄稿をお願いしました。

正しい剣道 無理のない剣道

教士 八段 渡邊 幹雄



正しい剣道、無理のない剣道は「切り返し、かかり稽古」と心得べし。

一、無理・無駄な剣道

剣道の打突の無理・無駄は剣道の評価を落とします。無理は剣道の基本にあっていないこと、無駄は打突の機会ではないのに打つことです。

「剣道は瞬間を善処するもの」と私が亡き恩師から教わったことです。相手を認識し、その中で相手に何が通ずるかの判断をし、決断すると同時に行動を起こすことです。

判断・決断から行動の間に若干の時間があれば、それが隙になると見て判断し、決断して行うことの全てが「瞬間」の中にあり、剣道はそのことに善処しなければならぬという無理・無駄のない剣道を教わりました。

「人の手を借りることができないのが剣道です。」

従って、常日頃から自分のことは自分で行うという習慣を身につけ、礼の仕方にしても、蹲踞の動作にしても、一つ一つをきちんとやるように覚えておけば、高段者になっても、高齢者になっても変わることなく出来るはずではないでしょうか。

二、仕掛けから繰り出される打突

稽古・試合は仕掛けて打突する。逆に仕掛けられて打突される。剣道は常にこの二面を持つものであると言われています。誰でもが、稽古であれ、試合であれ、打とうと考え、打たれまいと思う。打たれまいとして、首を曲げて交わしたり、或いは、竹刀の構えや手の内を横から持って踊っているかのようにする者もいます。これらはかなりの高段者の中にも見受けられますが、心の動揺を露呈していて見苦しいことこの上ないと言えるようです。

また、打突するに際しても、初めは習ったとおりの正しい打ち方、無理の

ない打ち方をしているが、やがて当たらないようになり、いつしか相手を騙して打つことを覚えます。さらにこれが功を奏して当たり、勝負に勝ったりするとその味が忘れられなくなります。そうなるとう正しい打突・無理のない打突は影を潜めて騙しの手法だけが残り、そのまま年を経っていくうちに矯正もきかず、悪い癖を持ち続けたまま上達したものと思ひ込んでしまします。

三、剣道修行の目的と精神

試合が多くなり、試合そのものが剣道の最終目的となってしまう、試合さえ強くなれば良いという錯覚を起こしてしまう今日、正しい剣道癖がつくまでの基本が軽視され、手取り早い試合に早がける習慣が付いてしまいがちです。正しい剣道、無理のない剣道の精神となる切り返し、かかり稽古が軽視され、もっぱら互角稽古、試合稽古に主体が置かれてしまします。そして、実力が付かないまま格好だけは大成したかのような剣道になってしまひ後悔することとなります。

高段者の中には、試合を主に考え、ただ勝つための試合中心の稽古に終始される剣道愛好者もいます。

剣道において、生涯剣道の基本となる切り返し、かかり稽古は必要不可欠の要素であることを肝に銘じて稽古に励むべきと考えます。

大会
結果報告

その他の大会は
新剣連ホームページを
ご覧下さい

第56回全国教職員大会剣道大会

8月10日(日)

香川県 高松市総合体育館

▽団体戦1回戦 惜敗

新潟1(1)―3(5) 茨城

先鋒 吉原 メー 安田

次鋒 池川 メー 林

中堅 山下 コメ 原口

副将 高橋 × 平山

大将 直原 メー 西野

▽個人戦 2回戦〜3回戦

市村 コー 朝比奈

市村 コー 木村

▽女子の部1回戦〜3回戦 (ベスト16)

宮島 ドメー 田中

宮島 コー 佐原

宮島 コー メー宮川

(ベスト16)

第45回全国高等学校定時制通信制剣道大会

8月11日(月)

日本武道館

▽女子団体戦

準優勝 新潟県A

(須佐、高野、大竹)

・リーグ戦第一ブロック

新潟A2(3)―0(0) 千葉

新潟A3(6)―0(0) 兵庫B

・準決勝

新潟A2(3)―0(0) 東京B

・決勝

新潟A0(0)―2(3) 東京A

▽女子個人戦

第3位 大竹 真央(1年生)

第9回全日本都道府県対抗

少年剣道優勝大会

9月14日(日) 大阪市舞洲アリーナ

◆小学生の部

監督・内野葉子、コーチ・三本雄樹

選手

先鋒 本間 朱莉(大鷲剣士会)

次鋒 高島康太郎(高田修道館)

中堅 中村 美空(仁智館道場)

副将 菅原 翼(〃)

大将 若狭 拳斗(大形剣道教室)

・予選リーグ

新潟1(3)―1(3) 宮崎

新潟1(1)―3(5) 滋賀

結果 新潟は予選リーグ敗退

(一敗一引き分け)

【監督観戦記】

今年で3回目の出場となり、今年こそは何とか予選リーグを突破したいと臨んだ大会でしたが、残念ながら予選リーグを抜けることはできませんでした。

宮崎との対戦では、先鋒が見事な返し胴で先制するも、引き面を取り返され引き分け。中堅は1本勝ち。大将戦では先に飛び込み面を決められたものの小手を取り返ししましたが再び面を決められ残念ながらチームとしては引き分けに終わりました。

次に勝てばチャンスはあると気合いを入れ直して臨んだ滋賀戦でしたが先鋒の1本勝ちの勢いに乗れず敗退。

今年のチームは6月の最終選考5名で強化に取り組んだこともあり、徐々にチームワークが高まり、大会では大将の若狭が皆に声を掛けながらチームを盛り上げました。

しかし全国大会の壁は厚く力不足は否めず、今後の選手の強化の在り方に課題を残す結果となりました。試合後は、ベスト8まで勝ち進んだ本県の中学生の試合を間近で観戦することで大いに刺激を受け、大会出場と合わせて今後の稽古に役立つものと期待します。各地区の予選会から始まり、強化練習、本大会までお世話になった関係者の皆様には心から感謝申し上げます。

◆中学生の部

監督・堀田正秀、コーチ・中村茂樹

選手

先鋒 小川莉々香(燕中学校)

次鋒 相場 葵(〃)

中堅 須田 友紀(白根第一中学)

副将 高橋 光司(本丸中学校)

大将 石附 潤平(石山中学校)

・予選リーグ

新潟2(4)―0(1) 兵庫

新潟2 (4) — 2 (4) 長崎
※一勝一分で1位。予選リーグを突破
・決勝トーナメント1回戦

新潟3 (5) — 2 (3) 山形
・決勝トーナメント2回戦

新潟1 (1) — 2 (3) 神奈川
結果 ベスト8 敢闘賞

【監督観戦記】

9月14日、「大阪府舞州アリーナ」にて、全国の各都道府県を代表する少年剣道大会が開催されました。県総体の予選結果をもとに、女子2名、男子3名の代表選手で編成させていただきました。大会に参加させていただきました。

予選リーグから厳しい組み合わせとなった今大会は、第2回大会優勝の兵庫県、第5回大会優勝の長崎県、そして本県チームと3チームの予選リーグからのスタートとなりました。

1回戦、兵庫県との対戦では先鋒・小川と次鋒・相場の女子が圧倒的な強さで2勝を先取し、中堅・須田、副将・高橋、大将・石附の男子が危なげながらも引き分けて2-0で初戦を勝利することができました。

2回戦は長崎県との対戦となりました。長崎県は第5回大会を制している九州勢だけに力もあり、大接戦の試合となりました。

先鋒・小川、次鋒・相場が圧倒的な2勝を納め、その後、中堅・須田が2本負け、副将・高橋が1本をするも2本返されて敗れ、2対2で大将・石附に勝負が託されました。

結果は大将・石附が引き分けて、長

崎県とは引き分け。長崎県はその後、兵庫県に敗れて、1勝1分けとなり、新潟県が決勝トーナメント戦へ進出することができました。

決勝トーナメント1回戦は、島根県、富山県を破り名乗りを上げてきた山形県でした。試合は先鋒・小川と次鋒・相場が2本勝ちの圧勝で中堅につなぎ、中堅・須田が2本負け。副将・高橋が執念の面を決め勝利。大将・石附は敗れたものの、3-2で新潟が勝利し、全国8強に進出することができました。

今大会では初の準々決勝進出となった新潟県チームは、準々決勝では優勝候補の神奈川県と対戦しました。先鋒・小川が痛恨の引き分け、次鋒・相場が1本勝ち、中堅・須田が1本負け、副将・高橋が粘って引き分けて大将に望みをつなぎましたが、大将・石附が2本負けで1-2の大接戦で惜しい敗退となりました。

しかし、小学校チームの内野葉子監督、中村茂樹コーチから、沢山の指導助言をいただき、県勢としては初の全国8強入りを果たし「敢闘賞」をいただくことができました。

この経験は、今後の新潟県の少年剣道の発展に大きな前進となる成果につながったのではないかと思います。

この度、新潟県を代表し、参加させていただきました剣道関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。大変ありがとうございました。(堀田)

第69回長崎国体剣道競技

10月19日〜21日

長崎県五島市中央公園市民体育館

▽少年男子1回戦

福岡県3 (6) — 1 (2) 新潟県

▽少年女子1回戦

山形県3 (4) — 2 (2) 新潟県

▽成年男子1回戦

青森県3 (5) — 2 (4) 新潟県

第49回全日本居合道大会

10月25日(土)

福島市あづま総合運動公園

県営あづま総合体育館

・七段の部

品田賢一郎 (柏崎) 3回戦惜敗

・六段の部

大西 伸和 (柏崎) 準優勝

・五段の部

栗原 啓幸 (豊栄) 2回戦惜敗

都道府県対抗優勝試合「団体」

監督 教士八段 品田峯雄 (柏崎) 総合6位

第62回全日本剣道選手権大会

11月3日(祝) 日本武道館

・1回戦

長尾 進治 — コメ 木村友哉

(山梨) 四段 (新潟) 五段

・2回戦

木村 友哉 — コ 内村良一

(新潟) 五段 (東京) 錬士六段

大会連覇を狙う内村選手に惜敗。

長崎国体参加と

本年度強化の総括

強化委員長 加藤 治



本年度、北信越国体では、少年男女とも一位で本国体出場権を得ました。成年女子は2

位と惜敗して本大会出場を逃しました。しかし、7月の全日本都道府県対抗女子優勝大会では2回目の優勝を果たし着実に力をつけているとともに選手層も厚くなってきています。今後に期待するところです。

さて3年連続の上位入賞を目指し臨んだ少年女子(新潟商業高単独)・第1回戦・山形戦、先鋒近藤、慎重に試合を運ぶも打ち切れず延長戦に入り15分過ぎ鏢迫り合いを解消しようとする間合いを切ろうとしたところを面に乗られる。次鋒岩倉、両者適正な間合いから互いに仕掛け延長戦に入り鏢迫り合いから右にさばいて引き胴を決める。続く中堅上段大野、優勢に試合を運び延長11分、間合いを詰めてきたところを出端面に仕留め大手を掛けた。副将植木、守りに入らず積極的に攻めるも、中心を外さない相手に出端面と一押しされて引いたところを面に乗られ対とされる。全幅の信頼のある大将河田、積極的に仕掛け、初太刀がだめなら二ノ太刀、三ノ太刀を繰り出すも相手に上手くしのがれる。終盤3分、鏢迫り合いからさばいて引き胴を放つも

1本とならず。縁が切れて追い込まれたところを出端面に合わせられ勝負あり。まさかの結果となりましたが、この1年常に全国大会上位を目指して努力と稽古を重ねた選手・監督に敬意を表します。

続く少年男子・1回戦・強豪福岡戦、先鋒松本(新潟第一)相手上段に対して果敢に攻め、延長戦で攻め込んで小手を決める。次鋒皆川(新潟商)、序盤に両者鏝迫り合いでの時間空費の反則を採られ、その後、鏝迫り合いから引き面を決められる。取り返そうと近間で体を裁こうとしたところ、鏝元を裏から払われ竹刀を落とす。痛恨の反則負けで流れを作れなかった。中堅樋浦(東京学館)は、互角の勝負で延長戦に入り、引き技を仕掛けたところ打ち切れず、間合いを詰められ面に乘られる。王手を掛けられた副将早川(新潟明訓)、両者仕掛けが早く打ち切れず中間での技の応酬が続いた。その後不当な鏝迫り合いの反則が相手に与えられ、それを機に触刃から仕掛けた技の起こり続けざまに胴と出小手に仕留められる。勝敗が決した大將戦、菊埼(新潟商)は、面を先取されるも、その後落ち着いて面に対し胴を決め引き分けとする。

本県の高校上位校は、打突のスピード、技の切れは全国の強豪と遜色がなくなりました。今後は、左手元を開かず中心を外さない剣道を徹底し切ることが全国上位に食い込む必須条件と考えます。その為には、県内の上位校同

士が勝負に拘らず切磋琢磨することと成年男子との合同稽古の機会を多くし地力をつけることが強化策の一つと考えます。

大会2日目、成年男子1回戦、対青森戦、先鋒西野、初出場らしく果敢に攻め出端面を決める。その後も積極的に仕掛けたが、小手すりあげ面と面応じ返し胴を決められる。次鋒木村、開始30秒と3分に受けてまわって引いたところを面に乗られる。中堅上段中嶋、冷静に試合運び、延長戦開始直後に出端面を決め後半につなぐ。副将藤塚、積極的に仕掛けるも、間合いを切られ打ち切れず延長戦に入る。10分を経過したところで再三狙われていた出小手を決められ勝敗が着く。大將戦は、渡辺が持ち味を活かし出端面と出小手を決め締めくくった。

稽古環境に比較的恵まれ試合経験も豊富な選手構成だっただけに初戦を突破できなかったことは悔いの残る試合でした。

チーム新潟としての勝負に対する強い気持ちの醸成が必要と考えます。

その為に通年を通して定期的な新剣連主催の合同稽古会実施が急務と考えます。現在、毎週末曜日の夜に実



▶成年男子選手・監督

施していますが、全県から集まりやすい曜日・時間帯の設定を再検討する必要があると考えます。

今年度は、全国都道府県対抗では、男子ベスト16、女子優勝、中学生ベスト8、そして全国高齢者剣道大会でも団体戦ベスト8、個人戦上位入賞者を出しております。各年代において潜在的な競技力が高いものがあると考えられます。これらを有機的につなげていくことが必要です。よく強化はピラミッド型が理想と言われます。その裾野を広げていくためにも各年代での指導者が共通の剣道観に基づいた一環指導が必要と考えます。

その為に全剣連および県剣道連盟主催の指導者講習会・審判講習会等各講習会が用意されています。自己研鑽をしながら師弟同行の剣道を目指したいものです。

なお、国体の監督資格には社会体育公認スポーツ指導者資格が必要になりました。【「社会体育剣道(初級)」：全剣連+「共通科目I」：日体協】成年の部では選手が監督を兼務することになっております。副将・大將の年齢層に該当する方は、取得をお願いいたします。また例年3月に実施していました国体予選会を新年度の5月に変更開催の予定です。

最後に、競技力だけにこだわることなく、剣道の持つ文化性を指導者が認識し指導することによって底辺の拡大と剣道人口の減少に歯止めを掛けたいものです。世阿弥の言う「時々の花」

を咲かせつつ「まことの花」「失せぬ花」を追求したいものです。



少年男女、選手、監督、コーチ陣

地域通信

剣道にちようせん!

中条剣道連盟 小野 裕史

胎内市中条小学校の行事の一つに「つばさっ子秋祭り」があり、これは地元地域の30程の団体の活動のどれかに、児童が挑戦するイベントで、今年は10月18日に開催されました。

中条剣道連盟は平成22年より、出前教室「剣道にちようせん」で参加し、今年で5回目になりました。今回参加した小学生は1、6年生の16名でした。時間は一時間半程度なので、初体験の子供たちに多くを教えるのは無理です。「剣道で大切な礼儀作法も教える



「ちようせん」も続きます。

われわれの「ちようせん」も続きます。

が、剣道を楽しんでもらえれば。」という気持ちで身体を動かすことを中心に進行了しました。普段走り回っている子供たちは、動きに対して順応性が高く、さらに吹っ切れると気持ちのいい「やーっ! (気合)」を聞かせてくれました。

多くの時間は割けませんでしたでしたが、なんとか「面打ち」までこぎつけ、みんな楽しんでくれたようでした。

最後に「黙想」を行い、剣道の「静」の部分も経験してもらい終了としました。

「つばさっ子秋祭り」に参加するのは、中条剣道連盟への勧誘の意味もあります。そのためイベント後は「この前の生徒が連盟の稽古に顔出ししてくれているのは?」という期待に胸膨らませて稽古に行きますが残念ながら今年も今のところ2回目はありません。

実は「つばさっ子秋祭り」の後に児童から手紙が送られてきます。「来年もまた行きます!」という文言。正直、2度目の「がっかり」があります。(来年ではなく、今すぐに来て欲しい...)

しかし、今年は「今度見に行くかもしれないから準備しててね!」という児童がいました。「もう一步というところか!?

初の公認審判員

講習会開催!

佐渡市剣道連盟 菊池 忠彦

日時 11月2日(日)10時~

場所 県立佐渡中等教育学校

参加者内訳

七段6名、六段7名、五段8名、

四段9名、三段9名

新剣連となり理事会・評議員会で承認され、今年から佐渡で公認審判員講習会が開催されることとなりました。関係者の方々に感謝申し上げます。

当日は39名の参加者がありました。時より雨の降る肌寒い天候となりましたが、受講者は真剣に講習に臨んでいました。

講習内容は主任講師の渡邊幹雄先生による講話、次に藤井紳一先生より基本所作の指導、その後藤井紳一先生と山田茂先生による実技指導を受けました。実技指導は、2つのコートに分かれて行いました。

毎年新潟で行われる審判講習会に参加していた受講者は地元でリラックスした雰囲気の中でも、この機会にレベルアップを目指したいと講師への質問も多く見られました。また今まで諸事情により参加していなかった受講者については緊張のあまり普段はやらないようなミスをしてしまい、会場に笑いを誘う場面もありましたが、全体的に真摯に取り組む姿勢を感じました。講師の先生方からの細かく丁寧な指導を受け、佐渡市剣道連盟の審判技術向上につながっていくと思います。また、受講者の審判技術向上のみならず、剣道技術の向上にも役立ったことは間違いありません。今回の講習を通じて、剣道技術の質を高め、剣道人口の拡大及び少年剣士のレベルアップに努めてまいります。大変意義のある講習会をありがとうございました。

部会だより

◆杖道部会

杖道部会事務局 下間 頼龍

10月12日東京都剣道連盟主催の杖道五段以下審査会が開催され本県からは四段を3名が受審しました。(合格者1名長岡支部 安達勇樹)

10月25、26日は合同合宿稽古会を3条グリーンスポーツセンターで行い13名が参加。講師に長野県から太田安昭教士七段を招聘し、基本技に重点をおいた稽古ができました。

1月には東京で行われる杖道地区講習会があり、本県からも参加予定です。以上 杖道部会近況でした。



原稿募集

広報委員会では、地域通信・短信のコーナーを募集しています。

支部同士での合宿交流や稽古会、練習試合、地域に根ざした伝統の大会など、活動状況など募集しています。

新潟県剣道連盟のQRコードです。ご利用ください。



編集後記

今年もあと、残りわずかになりました。年末年始にかけて稽古納めや稽古初めなど行われると思いますが、寒い時期でもあります。準備体操を十分に行い怪我をしないように気をつけてください。

さて、今号より試合結果、審査結果の掲載について見直しを行いました。新剣連主催共催大会、後援大会等については結果資料に基づきホームページに随時速報を掲載しております。また各地区昇段審査会、県外審査会等も同様です、ぜひホームページご活用ください。

今号は、全国クラスの大会そして観戦記を中心に編集いたしました。原稿を寄稿頂きました皆様にはこの場を借りて厚く御礼申し上げます。年に3回の発行となりますが、意義ある内容になるよう努力いたします。皆様からのご意見、ご要望をお待ちしております。

(大図)